

# 歴史探訪

## クラブ 其の172

History Inquiry Club

文化財課 ☎ 22-1720  
(博物館) FAX 22-2028

### 吉祥山泉福寺(その2)

#### ■泉福寺の隆盛

泉福寺は、平安から鎌倉時代にかけて、隆盛を極めていました。

焼失した旧本尊の十一面観世音菩薩像(伝行基作)や聖観世音菩薩像、観世音菩薩像は、いづれも藤原期(平安時代中・後期)制作のな



●泉福寺日本尊(焼失)



●泉福寺中世墳墓(市指定史跡)



●後背銘のある薬師如来坐像(市指定文化財)／泉福寺蔵

日伊勢湾周辺総合学術調査団美術班(石田茂作奈良国立博物館長など)の調査で、非常に価値の高いものとされました。このほかにも、鎌倉時代作の金銅仏・大日如来坐像(焼失)や、かろうじて頭部と胸部のみが焼け残った金銅仏・薬師如来坐像(田原市指定文化財)がありました。この仏像の胸部背後には「勤進沙門金剛仏子 永俊 泉福寺 嘉禎参年丁酉」の銘が刻まれ、嘉禎3年(1237)

に永俊という僧侶の勤進により制作されたことが分かります。

海を隔てた知多郡美浜町にある野間大坊(大御堂寺)所蔵の錫杖(愛知県指定文化財)にも「奉施入三州 渥美郡泉福寺拜殿 元応庚申八月日 大勤進栄源」の刻銘があり、元応庚申の年は、元応2年(1320)で、この年の8月に栄源という僧侶の勤進によるものであったことが分かります。

和田町にある医福寺蔵の大般若経(田原市指定文化財)は、木曾義仲の祐筆であった太夫坊覚明の写経と伝えられるもので、鎌倉時代以降にたびたび補書されています。その中には、「正和五年六月十日参州渥美郡山田 泉福寺東ノ坊ニ書写シラフル」と記されたものがあり、鎌倉時代の正和5年(1316)に泉福寺の東坊で圓證という人が補書したことがその奥書に書かれています。

泉福寺境内の東方にある約90基あったとされる中世墳墓群(田原市指定文化財)は、鎌倉から室町時代にかけて構築されたものです。この墓地には、渥美・常滑・

ここに列挙した焼失または現存する泉福寺関係の文化財などは、平安から鎌倉時代にかけての泉福寺の隆盛を物語るものです。

#### ■泉福寺の衰退

平安から鎌倉時代に全盛を誇った泉福寺は、戦国時代の混乱により一時期衰退したと考えられます。

文明12年(1480)ごろに田原に城を築城した戸田宗光や天文16年(1547)の今川義元による奥郡攻めなどにより泉福寺は、戦国乱世による荒廃の時期を余儀なくされました。

慶長6年(1601)、田原城主となった戸田尊次が山田村を支配し、泉福寺の修復をしたことから戦国混乱期に泉福寺が荒廃していたことが分かります。(天野)

●泉福寺参道石段(市指定史跡)／昭和30年代

